令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2671200117		
法人名	ヤマト株式会社		
事業所名	ニングルの森　平尾		
所在地	京都府宇治市平尾台一丁目３－８		
自己評価作成日	令和2年10月7日	評価結果市町村受理日	令和2年１２月２２日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2671200117-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和2年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅地の中、民家改修型の建物で段差、階段もありますが、身体機能の維持を自然と行え、とても落ち着いた雰囲気で入居者様は、今まで過ごしてきた自宅のような家庭的な環境で自分の居場所、役割を持って過ごして頂いています。今年、開設20周年を迎え、職員も5年以上～20年勤続者まで年齢も幅広く、何事も話し合い、意見を交わし合える環境、チームワークで入居者様の思いに寄り添い「安心な暮らしの継続」を支えております。今年の目標は、「地域の一員として共に喜びを分かち合う」として地域交流を積極的にと目指していましたが新型コロナウイルス感染症予防のため、外出も控えざる負えない状況です。室内で楽しみを見つけ、季節の花を飾ったり、食事を工夫したり、季節感を感じて過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

栄養士が立てた献立で、旬の食材を使い、薄味で、品数も多く食べる楽しみを大切にされ、食材の下処理や調理、配膳や片付けも利用者の残存機能を大切に各々が出来ることを職員と一緒に取り組まれています。一汁四菜の昼食を利用者はゆっくりと楽しんで食べ完食されて満足気でした。職員同士の関係も良く安定した働き甲斐のある職場だとヒヤリングでお聞きしました。職員は3人ずつ利用者を担当して利用者の事を知ることを大切にされています。例えば、利用者の勤めていた仕事場に他の利用者と一緒に訪ね、職場の職員の方に合い、現場での今までしていた仕事を思い出され「他の方を案内して廻られている姿」から同行した職員は遣り甲斐を感じる嬉しい経験をされています。今は、コロナ禍で外出や人に来て貰うお楽しみがすべて出来なくなり、今年度の目標も「地域の一員として共に喜びを分かち合う」と掲げ、地域での防災の取り組みを計画されていましたが、具体的には取り組めていない現状に歯がゆい思いをされています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			]
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「自然・地域と統合した人間として幸せな生活」認知症介護の理念「個性豊かに私らしく」と掲げている。また、毎年、ユニットの目標を職員間で話し合い決め、半年毎の評価や個職員個々に対し、評価を行い、理念、目標のを識し、実践に繋げている	法人理念・認知症介護の理念をもとに今年度も事業所の目標を「地域の一員として共に喜びを分かち合う」と定め、リビングの目に付くところに掲示し、利用者、家族、職員の共有と周知をめざしている。職員は、半年ごとに目標について振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度の目標に「地域の一員として共に喜びを分かち合う」としていたが、今年度は、行事参加、地域交流が困難。周辺の散歩にて挨拶を交わす程度となっている。	近在のオーナーや職員から、地域の情報を得ている。介護相談や子ども110番、夏まつり(地域)、小学生の下校時の見守り隊、地域のボランティアとの交流などが、利用者の楽しみになっていたが、事業所の夏祭りも含めすべてが今年度はコロナ禍で実施できていない。その中で、介護相談員からは、毎月手紙を貰い、利用者が返事を書く交流の支援が続けられている。毎朝のホーム前の清掃時や散歩時に、近隣住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区の中学生の職場体験や大学生の実習の受け入れを毎年行い、認知症についての知識を伝えたり、法人主催の「夏祭り」を開催し、事業所開放にて認知症の方とのふれあいや理解を深めてもらえる機会を設けている（今年は未実施）		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を奇数月に開催し、事業所の活動報告や法人の取り組みを報告している。新規入居者様が居室にこもりがちの課題について、継続的に状況を報告、意見交換を行った	会議のメンバーは地域・行政・家族と沢山の方に来てもらって2か月毎にそれぞれが来やすい土・金に開催していたが、今年度は、コロナ禍で資料を配布し、意見を貰う書類での開催になり、たくさんの意見を得て業務見直しに活かしている。会議の議事録は行政や家族全員、会議の参加者に配布している。	会議の内容を豊かにする取り組みとして、事業所からの問題提起をし一緒に考えて貰う方法として、ゲストメンバーとして警察署や消防署、スーパーの店長、小・中の先生、PTAの人などに参加要請をする方法などが考えられるが、一考を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の職員、市の介護保険課職員が参加。事業所の現状の報告、助言をもらっている。人材確保についても昨年、市の主催する就職フェアに参加をした	宇治市の地域連絡会議が平成30年度・令和元年度と2回開催され、行政からの情報提供がある。市の担当者とは電話連絡をとり助言を得るなど、お互いに意見交換できる関係が作れている。管理者は今後一層、関係が深められることを望まれている。	行政の職員は異動で代わられることが多いので、介護保険の対象になる地域密着型の施設として優れた取り組みをされている当事業所を市町村職員の研修場所にされるように提案をされ今後一層連携を深められては如何でしょう。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居契約時に「身体拘束は行わない」と説明をし、職員には毎年2回研修を実施し、周知徹底を図っている。施錠については危険とみなす場合や時間帯で対応している	法人内に「身体拘束禁止虐待防止委員会」を設立し、「身体拘束廃止の指針」を策定している。委員会を3ヶ月毎、研修を年2回実施している。職員は自己チェック表を研修前に行い、ケアの充実につなげている。日々のケアでは、言葉の拘束に十分配慮するように、、職員で共有を図っている。また、極力散歩に出かけ不安や混乱を取り除けるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内で身体拘束禁止虐待防止委員会を設置し、定期的に各ユニットの現状確認を行い、全職員に「自己チェック表」を配布し、自分の行動を振り返る機会を持っている	,	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族間の関係により話し合い、必要に応じて市の窓口へ相談、後見制度の支援を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い、不明点はないか確認しながら同意を得て契約を交わしている。入居後も介護保険法改正にて料金体系の変更に説明、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とは連絡を密にとり、報告や意見を求め、相談を行っている。来訪が難しい家族様もあるのでアンケートを用い、意見や要望を把握するように努めている	利用者にレクリエーションの点つなぎやぬりえなどしたいものを選ぶ方法で決めて貰っている。家族には面会時や電話、運営推進会議で意見を聞いている。アンケートを実施して遠方の方の意見も取り入れられるようにしている。苦情や意見は本人にフィードバックをして運営推進会議で公表する予定である。家族からは感謝の声は多いが苦情や意見は出てこない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内で業務改善について話し合い、管理者は、法人の会議で報告している。また、個々の職員が投書できる意見箱を設置したり、ハラスメントアンケートを実施している。	職員の意見は朝礼や申し送り、日々業務の中で聞くことが多い。例えば、18:00には勤務が終わるようになっているが、引継ぎがながくなりがちなので、改善要望の意見が出て、時間が守れるように改善し、その後の職員会議でも業務改善について話し合っている。勤務表作成の前に希望休を聞いて予定に入れるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回評価を行い、個々の能力を把握し、やりがいや資格取得等目標を定め、モチベーションの向上に導いている。キャリア形成を構築している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や役職にて階級別に研修を計画し、また、研修の案内を掲示し、自ら望む研修の参加ができ、知識や技術を得られる機会等、自己啓発に導いている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇治市主催のグループホーム事業所の意見交換会が行われた。他の事業所と交流ができる機会が持てた		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当面のケアプランを通じて、多職種カンファレンスに気付き・考察等記入ケアマネがまとめ、対応の工夫修正をし、職員間で話し合い共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面接・契約時等にご本人の生活暦や希望を伺い家族様の思いも出来る限りプランに反映出来る様にして、入居至る¨ご縁¨を大切に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画には、日々支援する事、本人の出来る事、家族様の意見も伺い、地域の社会資源も活用して（今年はコロナで不可）繋がりを大切にしている。又、個々のルーティン業務は個別ケアにまとめ職員間で周知している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が活躍できる場面を中心に今何がしたいか？どうしたいと思っているか？を出来る限り把握して少しでも充実感が持てる様に工夫をして共に過ごしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何でも話し合える関係作り、毎月の近況や通信で生活状況やエピソードを伝えることで現状を認識していただき、連携や協力も頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近は¨コロナ禍¨で活動の自粛となっているが、今までは、地域の行事やボランティア参加を楽しんでいた。（お茶会・生け花・絵手紙・絵画教室等）	今迄は知人が訪ねてくる人もいたが、だんだん少なくなっている。特に今はコロナ禍で家族とも面j会が出来ていない。宇治市内の有名社寺でガイドをしていた利用者が現場を訪れ、旧交を温めるなど、入居者とこれまでの社会の繋がりが途切れないように支援している。その他に、通院の帰りに馴染みの場所に寄るなどの工夫をして関係性の維持の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性入居者様との関わりを通じて、なごめる関係作りや難聴の方とのコミュニケーションが出来るように座席にも配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転入居時には、情報を提供し、連絡や相談があればその都度対応。退去後も家族様より○○に亡くなりました。やお礼の手紙を頂く事もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	課題が見つかればその都度、会議やカンファレンスをし現状を話し合い修正。多職種の毎月のカンファレンスでも気付きを考察して、今何が一番大切かを話し合っている。	入居前にアセスメントシートに過去の生活歴や趣味・嗜好を記録し、職員が何時でも見られるように共有している。職員が3人の利用者を担当し寄り添うことで、より理解が深められるようにしている。気持ちがほぐれる入浴時や何気ない日常のやりとりから新たな過去の履歴や思い等の情報を収集しケース記録に記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	来所時等に今まで過ごされていた生活習慣や、家族様との関わりを伺いケアに生かせるように話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	簡単な家事やレクリエーション等参加出来る方も少なくなってきた。コロナ禍もあり、出来る限り生活の中での活動を促している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で担当者を決めモニタリングをしている。入居者様の現状に即した介護計画となるように、困っている事や、疑問に思っている事はその都度話し合い、家族様にも近況や通信を送り意見を頂く。日々のルーティン業務は新人が見ても対応出来る様に¨個別ケア表¨に明確にしている。	日々のケア記録の上部にケアプランの取り組むべき課題が掲載されており、それに基づいたケアの取り組みの実践状況が記載されている。担当職員は日々のモニタリングをもとに、毎月個別ケア表を作成すると共にカンファレンスで情報を出し合い、担当している職員がグループホームケアプランを作成している。ケアマネがまとめ上げて利用者の変化や区分変更時にはサービス担当者会議（家族も参加又は意見を聞いてる。）を開催し医療情報は看護師から得ている。再アセスメントを行い、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者と日勤者との連携や朝礼時の引き継ぎ、多職種カンファレンスやケース記録からもニーズを引き出し、出来る限り反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの生活習慣を大切に家族様の考えや意見を考慮して協力も頂き、出来る限り反映し活動出来る様に工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや地域行事への参加は、この夏は全く出来なかった。社会資源（公園サロン・地域夏祭り等）を活用することで、地域の方との繋がりを大切に関わりが持てる様に期待している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診時に体調の相談をして処方薬の変更や紹介された専門外来の受診等、家族様とも連携を密にして適切な受診が出来るように対応している	契約時に利用者や家族に説明をして主治医を選んでもらっている。協力医の内科（看護師同行）や歯科（歯科衛生士同行）は月2回の往診である。ホームの看護師は利用者の体調管理を介護職と共同でしている。他の専門科（皮膚科・泌尿器科・神経内科等）受診時には、情報提供を行い、家族の付き添いができない場合、職員が同行している。協力医療機関は救急搬送の受け入れ先である。往診医と看護師は24時間オンコールで健康面の安心を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の体調異変や気になる状態を看護師に報告、相談をしている。また、主治医にも気軽に相談でき、指示を仰げる体制を整備している（24時間オンコール体制）		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに医療機関に情報提供を行い、ご本人、家族様が安心できるよう連携を図っている。今年は、病院への見舞やカンファレンスを行い難い状況であった		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の対応を説明している。状態により家族様、主治医、職員と今後を話し合い、方針を決めている。職員間では重度に伴ったケアの内容を話し合い、情報を共有し、急変時の連絡体制等を整備した	家族、利用者に契約時に「グループホームにおける重度化対応に関する指針」で、説明すると共に状態変化時に、主治医、家族、職員で方針を共有している。職員は常に研修を受けに行くと共に、利用者の重度化に向けてカンファレンスで看護師や医師を交えて学んでいる。H. 30年4月に7年間入所されていた方を看取り、家族の感謝を得た経験があり、事後に振り返りの会も行い職員の気持ちを受け止め記録を残している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として、職員研修を行い、応急的な対応や状態確認を周知している。発生事項、判断に迷う時は、速やかに管理者、看護師に連絡をし、指示を仰ぐ体制を整備している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間想定、日中想定で火災の消火、通報、避難訓練を入居者様、職員で行っている。また、防災マニュアルを作成し、自然災害時の対応を周知している。地域住民の参加はない。	非常災害マニュアルを作成し、年2回昼夜想定の訓練（火災時の初期消火・通報・避難誘導を利用者と共に行っている）を行いそのうち1回は併設事業所と合同で消防署の協力を得て行っている。別に地震の訓練も実施している。備蓄リストを作成し3日分蓄えている。事業継続計画は作成されていなかった。	災害時に事業を継続していくことを想定して、計画の作成が望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員がアセスメントシートに目を通し、生活歴での嫌な話には触れないなど配慮をしている。にゅよくや排泄など肌をさらすような場面では1対1で行いプライバシーの確保に努めている	利用者各々の生活歴を把握し、その方の大切にしていらっしゃる事や思いを尊重している。接遇の研修を年1回行い、日々のかかわり方を振り返っている。トイレや入浴時は1対1の介助に努め希望者には同性介助を行っている。利用者の要る場所での職員同士の伝達事項をしないようにし、必要時にはイニシャルトークや離れたところでするようにプライバシーにも気を付けている。ケース記録も目に触れない処に置くようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご本人が自ら望んだ事を実現できるようできる範囲で行っている。内部、外部研修では入居者が感情を表現できるような手法を学んだりしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カンファレンスにて他職員の思いなど話し合う機会を設け、多様な価値観認め合う事に努力している。入居者様が一日をどのように過ごしたいのか試行錯誤しながら真のニーズを日々の反応、表情を見過ごさず関わっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所内で理美容も可能であるが、要望にて地域の美容室にお連れしている。おしゃれに興味がある方に大きな鏡を居室におき、いつまでもおしゃれに気遣えるよう整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で一緒に買い物に行けていないが旬の食材を実際に見たりタブレットで紹介したり、個々の能力に合わせた調理、配膳、盛り付け、食器洗いなど役割を持って頂いている。毎月15日はリクエスト献立としている	栄養士がバランスを考えて立てた献立で季節の食材を取り入れている。利用者個別のルーティーン役割を計画し、食事の準備や片づけを一緒にしている。ご飯は自分の食べられる量を個々で盛り付けるようにし、一汁四菜の食事をその方のペースでゆっくりと楽しまれている。職員は同じ食事をしながら、介助している。暦の行事やリクエスト献立、誕生会、昼食会など、食事を楽しむ機会も多く食生活に力を入れて取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格を持つ職員がバランスを考え献立を立てている。食事の形態は入居者の状態に合わせ変えている。水分なども喫茶タイムを設けて、個々の好みに合わせてコーヒーやジュースなど選んで頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、見守り介助にて口腔ケアを誘導している。歯科医より毎月、口腔ケアに対し、指導や助言を受け、口腔内の知識を学び、ケアに活かしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けにて誘導を行う。一人一人の排泄パターンを把握し確認し、汚染が軽減できるよう支援。トイレの場所が分かるように大きく表示したり、時間を要する方にも急がせたりせず、ご自分のペースを保ってもらっている	排せつ記録で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来る様に支援をしている。利用者一人ひとりの立ったり、体をゆすったりするサインを見逃さず、誘導支援をしている。（自立3人、誘導6人）誘導や介助をする時はプライバシーに配慮している。便秘の時は薬に頼らず食事や飲み物、運動で解決が出来る様にしている。夜間は2階のトイレが1カ所しかなく混みあうので重複しないように誘導に配慮している。また、、ポータブルトイレを置いて失敗なく出来ることで、自尊感情を持てるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で確認している。便秘時には、下剤の調整や水分補給の促しや乳製品、食物繊維、適度な運動で便秘の解消を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調やペースに合わせて見守り、必要に応じ介助にて入浴を楽しまれている。拒否のある方にはタイミングや声掛けの工夫などで誘導している。ゆっくりと時間を持ち、1対1で話の傾聴にも心がけている	利用者の希望に合わせた時間帯で入浴をしている。週に2～3回、1対1でゆっくりと話の傾聴を心掛け入浴をしている。、基本同性介助だが、介助状態により、職員が変わることもある。浴槽の湯は毎回入れ替えて、石鹸類はそれぞれの好みのものを使っている。菖蒲湯やゆず湯で季節を感じてもらったり、入浴剤も希望により使用している。入浴拒否の方は、タイミングや声掛けの工夫で誘導しているが、全体的に長湯で入浴好きの方が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンを把握する。夜間の睡眠や体調など朝礼時に申し送り確認している。日中も自由に居室にて静養されたり、リビングのソファーで休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み残しや落薬等が無いよう飲み終えるまで見守り、口腔内に残っていないか確認している。　薬の変更、追加、注意事項は連絡確認し、連絡ノートも活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の体調に合わせ、趣味や得意分野での参加を促し、役割や喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近は"コロナ禍"で活動の自粛となっているが、季節の変化を感じられる場所へドライブ、外食、散歩買い物など楽しんでおられる。　地域の祭りや公園サロンにも参加し、地域の人々とも交流を深めるよう支援をしている。	今迄は利用者と散歩をはじめ、喫茶店へのコーヒー・スーパーへの買い物・公園サロン等へ行っていたが、コロナ禍の影響で出掛けられなくなった。今年は周辺散歩や季節の変化を楽しみに少人数でドライブに行っている。受診に出かけるのも気分転換になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つ大切さを理解しており、好みの物を購入し支払いをして、楽しみに繋げている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族様との電話の取次ぎや、手紙のやり取りを支援し、安心していただけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雑誌や本が自由に読める環境を提供している。 季節に応じた空調管理をしている。 季節を感じられる作品を入居者様と作り、目の付く場所に飾っている。	共有空間は利用者と共に朝の清掃をして気持ちの良い1日を過ごしている。換気は定期的に行い、室温・湿度は空調で調節をしている。テレビは野球や相撲、歌、お笑い番組を好んでみられているが、耳が遠くなっている方が多く、会話が減り、独り言が多くなっている。リビングは雑誌や本が、自由に読める環境をつくり、利用者と一緒に作った作品をかざって季節感を感じている。ソファーをリビングの奥2カ所に置き、一人でゆっくり過ごしたり、二人で座られたり、職員と談笑したりなどなど思い思いに過ごしている姿が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー等で利用者同士ゆったりと会話を楽しめたり、1人でゆっくりと休んだり静かに過ごせる場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物やご家族の写真等を飾り落ち着ける環境を家族様の協力のもと作っている。	居室の扉の前に家族の方に作って貰った手作りの表札がかけられている。一階は3室和室で畳の上にベッドを置き広く使っている。二階は洋室でひと部屋ずつ広さは異なるが、広くゆったりとしている。使い慣れた机やタンス、テレビを持って来て家族の写真や家系図、本を置いて家と同じ環境で安心して過ごされている。持ち込みの少ない方は利用者に希望を聞き職員の作品を飾っている方も見られるなど、落ち着いた居心地の良い居室となっている。室内は利用者と職員が毎日一緒に清掃をして、清潔を維持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札をかけ、解かりやすく迷わない工夫をしている。自分の居室が解からない方は、歩行や階段昇降時には声掛け、見守り、介助など安全で自立した生活が送れるように支援をしている。		